２０２３年度　点検評価改善報告書

［委員会別業務評価］

西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	人事　委員会		
大短委-2023			担当部局等	部局等	事務部	課　庶務課

委員会設置の根拠（規程等）	西南女学院大学・西南女学院大学教員及び助手選考規則第2条

構成						構成員数
	委員長	目野郁子	副委員長	劉明	末嵜雅美	6
	委員	目野郁子	稲木光晴	坂田郁子	クリステン・サリバン	
		劉明	末嵜雅美			

委員会の役割に関する事項（概要）	■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、採用候補者及び昇任候補者を選定する。 ■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、特別契約教員人事を取扱う。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	採用人事	適正な人材の確保（後任補充）	上程	教授会・別科会
	昇任人事	公正な昇任人事の実施	上程	教授会・別科会
	特別契約教員人事	適正な人材の確保（新規、更新）	上程	教授会・別科会

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	円滑な委員会運営			
	採用・昇任選考作業			
	採用予定者との連絡調整			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	採用人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学の採用人事の多くは、後任補充人事である。 ■次期の教育研究体制に支障が出ないよう、適正な人材を確保したい。 ■人事に係る意思決定過程を勘案し、適切な人事作業日程を策定する。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■人事案件ごとに採用選考委員会を組織し、公募要項の作成、応募者資格・業績審査、面接、その他リサーチを実施。■採用選考委員候補者の選出では、専門分野等を考慮したうえで選出根拠を明確にすることを申し合わせた。■当該学科人事委員等においては、適正な人材を獲得するために学内外に対して必要な働きかけを行った。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施		
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■人事案件10件(公募継続中1件あり)のうち、採用候補者を上程するに至ったのは9件（9名）であった。 ■委員会運営（日程調整、選考・評価作業等）は、人事委員と採用選考委員の連絡調整が適切に行われる中で進められた。	結果の評価 □達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退		
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■公正な人事手続を前提とし、理事会決定後の採用予定者に対しては必要に応じて連絡調整を行うなどして、着任までの円滑なコミュニケーションを図るよう努める。 ■当該学科人事委員は学科及び採用選考委員と適切に連携を図る。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■人事委員が学科及び採用選考委員と適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考を行う。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]	昇任人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■昇任人事申請資格者に対して、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を明確に示し、公正に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。			
	↓	↓			
	D 実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昇任人事に関する申し合わせ事項を作成し、教授会及び別科会で説明を行い、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を周知した。 ■人事委員会において人事日程、申請に係る各種様式、申請資格者情報等を確認し、公正な人事を手続の面からも担保した。	過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施		
	↓	↓			
	C 評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■申請期間及び選考期間の終了までの間、委員会は人事の透明性、公平性の観点からその責務を果たした。 ■選考の結果について、候補者の昇任可否に関する委員会としての根拠を明確にし、教授会の場や対象者に対して説明責任を果たせる態勢を整えている。	結果の評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退		
	↓	↓			
	A 改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■昇任人事においては、学科によって教育研究以外の業績の評価を重視する場合があるため、事前に昇任人事申し合わせ事項の精査・修正を十分に行うことで、各学科の特性をいかした、スムーズな昇任選考に繋げていく必要がある。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]	特別契約教員人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学評議会による特別契約教員に係る人事方針に基づき、本学の「特色ある教育」の推進と次期の教育研究体制の充実のために、候補者の職位（案）を適切に判断し、教授会に上程したい。			
	↓	↓			
	D 実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新規の案件については、候補者から提出された個人調書及び教育研究業績書をもとに該当する職位について審査を行った。 ■更新の案件について、大学評議会の人事方針に基づき、当該学科長より提出された推薦理由書等を確認し、教授会上程への手続をとった。	過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施		
	↓	↓			
	C 評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■新規案件は3件であり、候補者を上程するに至った。個人調書及び教育研究業績書の審査により、適切な職位を案として確定させた。 ■更新案件は6件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。	結果の評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退		
	↓	↓			
	A 改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■特別契約教員の採用願（継続願）の内容を見直し、各学科で異なっていた様式を統一した。次年度から新様式を用いる。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■人事案件ごとに日程管理を行い、法人本部への進達期限を逸することが無いようにしたい。 ■各人事案件を並行して行い、会議の回数を減らし、委員及び関係部局の負担を軽減したい。 ■資料等作成（複製）のためのコストを軽減したい。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昼休み時間帯を活用し、所定の勤務時間外に委員会を開催することを極力避けた。 ■人事案件ごとの選考日程は、選考委員会に裁量を与え、十分な日程を確保した。 ■業績資料の閲覧は、書類選考後とし、複製に係る物的・人的コストは低減した。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■採用面接を除き、委員会は所定の勤務時間内に開催された。 ■各委員及び担当部局は、スケジュール調整に柔軟に対応した。	結果の評価 □達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■採用選考の当該学科人事委員による評価表取りまとめに際し、委員会としての統一的取扱いの検討は継続を要する。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■採用選考の評価表様式について、実態をふまえながら引き続き改善を検討していきたい。	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項

項目［事案］	円滑な委員会運営	決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第2条、第5条			

■委員長と担当部局は連絡調整を密にし、特に日程管理の観点から意思疎通を図った。
■人事案件に係る学科人事委員は日程、審査、委員会前の事前打ち合わせなど遺漏なく行い、担当部局と学科との仲介者として役割を果たした。

項目［事案］	採用・昇任選考作業	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
項目［事案］に係る規程上の根拠	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教員及び助手選考規則第6条			

■採用選考委員会は、手続においても、具体的選考作業においても、適切に公正に機能した。

項目［事案］	採用予定者との連絡調整	決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

■採用承認後の採用予定者との連絡調整について、当該学科の人事委員は学科長と連携して採用予定者と然るべく接触を図るとともに、担当課は法人本部と連携を図って対処した。

項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教務　　委員会			
大短委-2023			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課

委員会設置の根拠（規程等）	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第３９条、教務委員会規程

構　成						構成員数
	委員長	太田　かおり	副委員長	荒木　剛	阿南　寿美子	
	委　員	髙橋　甲枝	荒木　剛	天本　理恵	クリステン・サリバン	
		前田　幸	隅田　直孝			9

委員会の役割に関する事項（概要）	■教育の質の維持、向上及び学生の修学上の支援を行うために必要な以下の事項を審議する。 １.教育課程の編成及び授業に関する事項　２.学生の休学、復学、退学、卒業及び課程の修了に関する事項 ３.転学部・転学科に関する事項　４.研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する事項 ５.行事日程に関する事項　６.その他教務に関する事項

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	長期履修制度について	学則の改正	上程	大学評議会
	教養教育小委員会について	教養教育小委員会内規の制定について	上程	大学評議会

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学生の動向について	休学、退学、復学、除籍、復籍の審議	決裁	教授会報告
	転学部・転学科について	受入れ可否審議	上程	教授会
	非常勤講師候補者の委嘱について	非常勤講師候補者の委嘱について審議	上程	非常勤講師候補者選考会議
	卒業判定について	前期末、年度末の卒業判定についての審議	上程	教授会

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	長期履修制度について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■短期大学部において、多様な学習需要に対応し、高等教育機関における学習機会を拡大することを目的として、学生が個人の事情により修業年限を超えた一定期間にわたり、計画的な履修を行えるようにしたい。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■長期履修に関する規定を設ける。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施		
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■大学評議会にて承認され、2023(令和5)年6月1日から施行、2024(令和6)年度入学生から適用される。	結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退		
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■今後も必要に応じて改正を行う。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]	教養教育課程の改正について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教学マネジメント会議からの指示を受け、2025年度からの教養教育課程について見直しを検討していく。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■大学および短期大学部の教養教育について全学的な検討を行うため、「教務総合人間科学小委員会」を、新たに「教養教育小員会」として設置するように内規を整備した。			過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■「教養教育小員会内規」は、大学評議会にて承認され、2023(令和5)年10月1日より施行される。 ■教養教育小委員会において、社会のニーズにあわせた教養教育の展開について検討を開始した。			結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■2025年度改正に向けて、総合人間科学新規カリキュラムについて検討を重ね、2024年5月の理事会への上程をめざす。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の評価 □順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			結果の評価 □達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■第１回目の教務委員会で今年度の審議・検討事項についての確認をする。 ■アセスメントチェックを継続して実施し、内部質保証体制を確立する。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■今年度の審議・検討スケジュールに従い、滞りなく実施することができた。 ■教学マネジメント会議によりアセスメントポリシーが制定され、教務委員会で実施してきたアセスメントチェックを全学的な内部質保証体制として位置付けることができた。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■機関レベルのアセスメントチェックによって、教育課程レベル及び科目レベルのアセスメントチェックが検証された。	結果の評価 □達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■特に教育課程レベルのアセスメントチェックが、学科の教育の改善に繋がるよう、実施内容などをさらに検討していく。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］	休学・退学防止のための学科における取り組み状況	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	■昨年に引き続き、各学科が2023年度退学防止のための取り組みを作成し、教務委員会で共有した。各学科・別科での退学防止の改善策内容を共有することで、各学科の取組みや改善策についての参考となった。				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	学生　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	学生部	課	学生課

委員会設置の根拠（規程等）	「学生委員会規程」第１条

構　成						構成員数
	委員長	髙﨑　智子	副委員長	アンドリュー・ジッツマン	篠木　賢一	
	委　員	布花原　明子	木村　茂喜	永原　真奈見	アンドリュー・ジッツマン	
		劉　明	篠木　賢一	高﨑　智子	藤川　信幸	8

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の学業指導及び生活指導に関する事項、学生の課外活動に関する事項、奨学生に関する事項、授業料減免に関する事項、学生の厚生施設及び厚生事業に関する事項、学生の保健管理に関する事項、その他厚生補導に関する事項について審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学業奨励奨学金の募集・選考	応募者49名、採用者29名	意見	学長
	特別奨学生の選考・更新	新規採用7名、修学指導3名	意見	学長
	学生生活に関する実態調査	11月中旬から12月中旬に実施。2020年度入学生者の経年変化分析		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 限られた時間内で集中した審議行うようにする。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 委員長は審議事項の背景、ポイント、参考となる事項を説明する。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 審議の論点がずれることなく議論が進んだ。	結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 今後も引き続き、継続して取り組んでいく。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］	高等教育の修学支援制度	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	継続して支援を受けるためには、一定基準の学業成績を収め、適格認定を受ける必要があるため、成績不良者に対しては個人面談等により学修指導を強化するように、学生委員を通じて教員へ周知を図った。				
	項目［事案］	学生生活に関する実態調査	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	2022年度「学生生活に関する実態調査」では、「学修支援」「学生サービス」「学修環境」に重点を置き、変更がなされた。2023年度は特に変更せず、各学科での教育活動、学修支援等の見直しの検討に活用いただいていると思われる。今後も学生の声を拾いあげ、実践的な学生支援に結びつけられる調査の実施を目指していく。				
	項目［事案］	2023年度大学祭	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	新型コロナ渦が薄れ、学外者への開放を含め、２日間の開催で大学祭を開催した。学祭実行委会は２日間の開催は初めての経験であり、学生課職員もほとんどが大学祭の体験がはじめてであり、学祭実行委員会と学生課職員で試行錯誤しながら、学祭実行委員会が主体的に企画運営し、大きなトラブル、苦情もなく、成功裏に終えることができた。				
	項目［事案］	2024年度オリエンテーション	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	2022年度の第4回学生委員会において、2023年度以降のオリエンテーションについては基本方針として、特に新入生が精神的・体力的余裕を持って大きな変化に対応できるように配慮するため、新型コロナウィルス感染症により影響のうむに拘らず、必須プログラムを軸に必要最小限のプログラムにとどめ、スケジュールの過密化抑制に努める確認がなされいる。その基本方針を重視しつつ、大学として必要と考えられるプログラムは追加することとしし				
	項目［事案］	助産別科生の自動車又はバイク（原動機付自転車を含む）使用におけるガイドラインについて	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	助産別科長より、助産別科の実習先での自家用車及びバイクにより通学を認めて欲しいとのことで、検討を行った。分娩のかんけいで、学生は２４時間体制での実習のため、深夜などバスは無く、タクシーも捕まらないとのこと。「ガイドライン」「申請書兼誓約書」「申請に関する説明書」「許可証」を作成し、実習先での自家用車及びバイクの利用を認めた。				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	就　職　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	学生	課	就職課

委員会設置の根拠（規程等）	就職委員会規定

構　成						構成員数
	委員長	髙﨑　智子	副委員長	高橋　幸夫	藤田　稔子	
	委　員	髙﨑　智子	金山　正子	中川　美幸	山田　志麻	
		西原　真弓	高橋　幸夫	藤田　稔子	坂田　美登里	8

委員会の役割に関する事項（概要）	・学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。 ・卒業生の就職先アンケート、卒業生アンケートについて就職委員から学科での検討事項として取り組む。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	低学年からの就職意識の醸成	英語・観光2年生と企業との「社会人交流会」実施		
	学内合同企業説明会の実施	学生中心に企画運営し、参加者増加を目指す		
	卒業生等アンケートの実施	就職1年目の就職先、入職後3年目の卒業生を		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	各学科対象の就職ガイダンス再構築	保健福祉学部のガイダンス開催＋ES対策、面		
		対策を参加しやすいタイミングで開催		
	人文学部対象のガイダンス開催方法	人文3年生対象にインターンシップ授業後に開		
	国家試験説明会・受験申込みの簡素化	すべての国家試験申し込みを説明と同時に記		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項

項目[事案]	低学年からの就職意識の醸成	決裁・意見・委託・上程の別		

P　計　画

当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか

・英語・観光文化学科2年生全員を対象に「社会人交流会」を実施
・北九州市内または周辺に本社・拠点を置く企業から学生に「仕事」「会社」「働き方」などについて話してもらう
・低学年の学生が前向きに幅広い視野をもって、就職活動に臨める環境を整える

↓

D　実　施

計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか

・来校いただいた企業を中心に内容説明した上で協力要請
・全4回実施（1日5社・合計20社が参加）・授業「現代ビジネス人材論」「キャリアデザイン論Ⅰ」の中で事前講義➡グループワーク➡体験➡プレゼン
・社会人との面談から学び、より多くの業界・企業・仕事について学ぶ

過程の評価
■順　調
□遅　延
□未実施

↓

C　評　価

実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か

・英語、観光の学生が学科を超えて協力できた　・参加学生の多くが社会人に質問するハードルを乗り越えた・学生は、対面でのコミュニケーションのとり方（表情・相槌・言動）を学んだ　・グループワークのあり方、プレゼンのまとめ方などを習得した
・1回目には卒業生の新人➡20代後半社員➡中堅社員➡役職者と少しずつハードルを上

結果の評価
□達　成
■前　進
□維　持
□停　滞
□後　退

↓

A　改　善

評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと

・企業選定は年度初めから取り組んだが、日程が曖昧であったため、説明すると同時に日程調整することを心掛けたい　・最後のグループごとのプレゼンテーションを実施するにあたり、手順が悪かったため、授業の中での指導を強化したい　・発表の方法、pptの作成方法もあわせて指導することが必要

次年度見通し

n

・今年度まで社会人交流会を課長担当業務として取り組んできたが、次年度人的余裕のない就職課で誰に申し送るかを検討中。できるだけ誰でも担当できるよう、工夫していきたい
・今年度同様に人文学部2学科を併せて開催する予定

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項				
項目[事案]	学内合同企業説明会の実施	決裁・意見・委託・上程の別		
P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・1,2年の学生に広く学内合説スタッフの活動を広報し、この活動に参加した学生が就活時の”核”となることを目指す ・就職活動をスタートする3年生、これから企業・業界を学ぶ低学年学生双方に有意義な説明会を目指す　　・学内合説に参加した企業について、より見識を深める			
↓	↓			過程の評価
D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・後期授業開始後すぐに学内合説学生スタッフを募集するための説明会を開催 ・英語学科1年生12名、観光文化学科2年生2名、観光文化学科3年生1名、総勢15名の学生がこの活動に参加　・木曜日昼休みにミーティングを開催し、できるだけ学生が考えて合説準備できるよう支援　・対面で開催　・企業17社が参加			■順　調 □遅　延 □未実施
↓	↓			結果の評価
C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ・学生スタッフとして活動した学生は英語学科1年生が多数。発言も多く前向きに取り組んだ。 基本は1名1社を担当。学生スタッフとして十分に活動した。・参加学生が大変少なく、例年の課題が大きく露呈した。　実参加者38名。延べ参加人数141名。 ・学生スタッフが企業対応等を経験することができたことは良かった			□達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
↓	↓			
A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ・学内合説の大きな課題は参加学生数が少ないこと。 例年同様の開催方法では、同じ結果しか得られないと痛感している。 学科と相談して、授業の一環として合説参加を促すこと。またはそれに準ずることを考えることが、 喫緊の課題である			
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ・授業期間中に学内合説を開催するとなると、学生スタッフの募集をかなり前倒ししなければならない。 うまく対応できるか…。次年度早々に考える予定。			

項目[事案]	卒業生等アンケートの実施	決裁・意見・委託・上程の別		
P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・卒業後1年目の卒業生が入職している受け入れ先、卒業後3年目の卒業生にそれぞれアンケートを依頼し、今後の就職指導や授業に活かしていきたい ・北九州周辺の就職先（とくに一般企業）には直接訪問して内容説明とともに卒業生評価等を聞き取りし、リアルな感想を聞き出す			
↓	↓			過程の評価
D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・卒業後3年目の卒業生からのアンケート回収率が低いことが最大の課題であるため、基本は就職先に郵送した。 ・昨年から郵送とWEB回答の2本立てで実施。とくに回収率の悪い卒業生には一人ひとりメッセージを送り、アンケート回答の協力を求めた　・就職委員から学科教員にも協力を仰いだ			■順　調 □遅　延 □未実施
↓	↓			結果の評価
C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ・卒業生個別に連絡をとることで回収率が少し上がった ・先生からの口コミ、友人からの口コミ等、できる限りアンケートについて広めた ・就職先からの回収率は順調で、協力していただいている ・入職先から返送されたアンケートを学科就職委員に早めに送り、学科内で共有してもらった			□達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
↓	↓			
A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ・ここ数年の卒業生からのアンケート回収率の低迷を打破するために、本年度よりLINE公式アカウントに Lステップを導入した。卒業時に登録することで、卒業後も大学と繋がりをもつことができ、卒業後3年目にLINEからアンケート回答をお願いする予定（昨年度、卒業式当日に登録を依頼したが、もう一段階			
次年度見通し	・卒業生アンケートの回収は次年度までこれまで同様の方法でしか回収できない。 就職先に郵送したことで3年以内に退職している状況を確認できたため、次年度も同様に郵送したい。 ・LINE登録については、4年生が就職先を決定して就職課に報告に来る際にお願いすることで登録者を			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ①看護師・保健師・助産師②社会福祉士・精神保健福祉士③管理栄養士　各国家試験の願書配布、願書記入など一連の手続きを効率よく実施する。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・対面で願書記入会を開催する際、事前準備することを「就職課：各学科クラスルーム」に掲載し、願書記入。その場で自己確認し、記入漏れやミスを確認することですぐに訂正し、願書を提出させる。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ・その場で確認し願書提出するため、効率もよく間違いも減った。 教務課の協力を得て、自治体への書類送付・返送の時期を前倒しすることができた。 順調に国家試験の事務手続きを終了できた。	結果の評価 □達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ・看護学科：受験票が大学に届くため、感染対策として学生全員に簡易書留にて受験票を郵送している。郵送料軽減のためにも、願書記入会の際に、来校する学生と郵送する学生をしっかり区分する。封筒の宛名も自署することで、事務と経費を削減したい。　・栄養学科の国家試験対策から、受験申込み後に受験資格を失う学生が多数となった。受験を申し込んだ学生が必ず受験できるよう支援していただきたい。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ・看護学科：次年度の検討事項として、学科国試対策教員に改善の協力を依頼した。前年度同様にするのではなく、少しでも良い方向に改善したい。 ・栄養学科：受験申込までに国家資格についての認識を学生にもって受験に臨んでほしい。学科教員と協議したい。	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学宗教　　委員会		
大短委-2023			担当部局等	部局等	学生部	課　学生課

委員会設置の根拠（規程等）	「大学宗教員会規程」第１条				
構　成	委員長	東　彩子	副委員長	山田　志麻	神崎　明坤	構成員数
	委　員	隅田　由加里	金谷　めぐみ	山田　志麻	神崎　明坤	
		東　彩子				5

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の宗教指導に関する事項、その他宗教に関する事項について審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	大学・短期大学部チャペルの企画・検討・運営	奨励者の選定、学生指導等		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	クリスマス募金	学内クリスマス募金のための募金活動の企画、検討、実施		
	能登半島地震の募金	学内募金のための募金活動の企画、検討、実施		
	次年度以降クリスマス礼拝会場の検討	経費等を含めた次年度礼拝会場の検討		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項

項目[事案]	カルト対策について	決裁・意見・委託・上程の別		

P　計　画

当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか

■カルト対策は、学生に対してUNIPAで注意喚起のチラシを掲示し、キリスト教学の教員が授業の中で説明をしているが、教職員には何も行っていない。そのため、委員から教職員に対してもカルト対策の研修について提案がなされた。審議の結果、学生にはチャペルの中で、教職員には研修会を開催する等の対応を検討することが決まった。

↓

D　実　施

計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか

学生については、後期チャペルの中で実施され、教職員については、2023年度教職員研修懇談会（大学・短期大学部）で教員のみで、８月２２日（火）に開催された。第1部は「わたしがカルトに？ゆがんだ支配はすぐそばに」日本基督教団仙台宮城野協会牧師で日本基督教団カルト問題連絡会世話人をつとめる齋藤篤先生に講演、第２部は参加者のグループディスカッションを実施した。

過程の評価

■順　調
□遅　延
□未実施

↓

C　評　価

実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か

研修会後のアンケートでは、なかなか理解するのは難しかったという意見もあったが、教員には「カルト」というものが記憶されたに違いなく、意味ある研修会であったと思われる。
予防はまず意識からと考えると、まず１歩足が前に出たと思います。今後も定期的に「カルト」に関する研修会や講演会を実施することで、学生を「カルト」から守ることにつながると考えます。

結果の評価

■達　成
□前　進
□維　持
□停　滞
□後　退

↓

A　改　善

評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと

これからも引き続き、「カルト」についての危険性を考えていける機会をつくる。

次年度見通し

次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し

「カルト」に関しては、教員はまず１歩前に進みました。次は職員も前に１歩進める状況をつくる必要がある。

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく女子教育に沿った全学的なチャペルの計画を策定する。
	↓	↓
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■外部講師の人選について、宗教主事は、院長、学院宗教主任、学長に内諾を得て、大学宗教委員会で意見を聴取し、承諾を得た。 ■コロナ明けチャペルを感染対策をレベル中にして対面で実施する。 ■クリスマス礼拝については、地域の方々や学生の保護者にも開放することにした。 過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■コロナが穏やかになり、全学科のチャペルを、感染対策レベル中にし、対面により実施した。問題なく実施できた。 ■クリスマス礼拝については、学生の保護者には例年より多く参加いただけた。直接は聞いていないが、評判は良かったと聞いいる。 結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■チャペル、クリスマス礼拝、どちらにも共通することですが、コロナ渦が明け、学生にとって、対面で人と触れあえることがどんなに素晴らしいか、学生に「感動」「喜び」を感じられるよう、内容を計画していきたい。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■チャペルが対面となったが、ビデオカメラで引き続き、録画し、記録は保存していく。 ■チャペルは現在、短大が水曜日、大学は木曜日の開催している。２０２５年度より、大学、短大合同でチャペルを開催することになった。

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	研究紀要　委員会		
大短委-2023			担当部局等	部局等	図書	課

委員会設置の根拠（規程等）	紀要規程第４条、研究紀要委員会規程

構成						構成員数
	委員長	梶原江美	副委員長	ブラウン馬本鈴子	篠木賢一	
	委員	梶原江美	岡田和敏	八木康夫	ブラウン馬本鈴子	
		篠木賢一	垂水典子			6

委員会の役割に関する事項（概要）	■研究紀要原稿の募集に関する事項、研究紀要の編集に関する事項、研究紀要の刊行に関する事項、研究紀要の発送、整理及び保管に関する事項を審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	紀要編集・発行について	紀要編集・発行についての確認	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	紀要掲載論文の取り下げについて	前年度掲載論文の取り下げについて	意見	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	紀要編集・発行について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2018年度から試行期間として変更した日程で、引き続き編集作業を進める。4月に原稿募集を行い、教員が余裕をもって論文執筆や査読後の修正にあたることができるスケジュールになっている。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■4月6日に第1回研究紀要委員会を開催し、4月10日に専任教員及び助手に原稿募集のプリントをメールボックスに配布して行った。学内情報掲示板にも掲示した。		過程の評価 □順　調 ■遅　延 □未実施	
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■前年度は、委員会の開催が遅れ、6月の原稿募集となったが今年度は予定通り4月に開催し原稿募集も遅れた。■申込件数は、14件より7件減少した。原稿提出締切での辞退は7件だった。■査読後の辞退、不採択もありVol.28（2024）は、4件の掲載となった。		結果の評価 □達　成 □前　進 ■維　持 □停　滞 □後　退	
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■4月の原稿募集は、多忙な時期でもあり、申し込みに影響があるのではないかと考えられるため、募集時期を検討する。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「西南女学院大学紀要Vol.28」の発行を目標とし、編集・発行業務が円滑に進むよう年間スケジュールを作成する。■2018年度から試行期間として開始した「紀要編集・発行日程」で作業を行う。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■原稿募集が例年より遅れた。■年間スケジュールに沿って紀要原稿の募集、編集を行ったが、新型コロナウイルス感染の影響もあり、現在納品を待っている。納品され次第他大学への送付を行う。■委員会だけではなく執筆者、査読者にも年間スケジュールを配布し、円滑な編集作業に協力を求めた。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■募集は遅れたが、編集、発行にあたり、原稿提出までは、スムーズに進んだ。■査読候補者に、図書館からメールで依頼したが、今年度は全員から内諾をいただき、査読者の選定はスムーズに行うことができた。	結果の評価 □達　成 □前　進 ■維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■その年度によって、投稿申込数や提出論文数が変わるため、次年度も状況を確認しながら、1本でも多くの論文の掲載ができるよう確認や案内を行う。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	紀要掲載論文の取り下げについて	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	前年度に掲載した紀要論文1件について、執筆者より掲載取り下げの申し出があった。委員会としては、前年度の掲載であり、査読も受け、委員会が承認し掲載されているため、取り下げについて判断するのは難しいとの意見が出され、研究紀要委員長から学長に報告し、判断を仰いだ。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	公開講座　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課

委員会設置の根拠（規程等）	公開講座委員会規程				
構　成	委員長	藤田　稔子	副委員長	水貝　洵子	ブラウン馬本　鈴子	構成員数
	委　員	財津　倫子	水貝　洵子	永田　純美	ブラウン馬本　鈴子	
		藤田　稔子				5

委員会の役割に関する事項（概要）	■公開講座委員会は、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部全体として主催又は共催する公開講座に関する事項を審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	公開講座の開催	シニアサマーカレッジの開催	決裁	本部事務局長
		（北九州市社会福祉協議会との委託契約）		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	公開講座の開催	決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学学則第55条及び短期大学部学則第51条に則り、公開講座（シニアサマーカレッジ）を開催する。■開催にあたっては、アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講師の選出及び講座形態（講義、演習、実習、見学等）を検討し、受講生の確保（新規・リピーター）に努める。■シニア対象のため、手指消毒、座席の間隔を開ける、講師・学生にはマスクの着用を求めるといった感染予防対策は引き続き行う。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催した。■北九市内在住若しくは市内に勤務している55歳以上の方を対象に8日間で15講座を開講、本学の教員15名が講師を担当した。■講座前には健康チェックを行うなど新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施		
	↓	↓			
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■受講生は34名、定員40名を充足できなかった。（2022年度は定員40名に対して28名）■各学科及び別科の専門性を活かした講義を行った。受講後の感想では、「よい」が93.1%、「普通」が6.9%となった。「よい」は2022年度より5.1%上がった。■感染防止対策に努め、期間中、受講生間の感染もなく、8日間の講座が無事に終了した。	結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退		
	↓	↓			
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講座担当講師の選出及び講座形態（講義、演習、実習、見学等）を検討する。■周望学舎と本学からの案内がきっかけで受講した人が45%。また、次年度以降の受講について、「また受講したい」「可能であれば受講したい」は100%であった。引き続き、案内及び広報を行い、受講生（新規・リピータ）ー確保に努める。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■シニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催する。■できる限りコロナ禍前の状態に戻し、受講生に好評な調理実習、レクレーション、社会見学、受講生と学生が触れ合うことができるような講座形態を取り入れる。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催する。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■第1回委員会では、講座形式・日程・テーマ・予算・担当コマ数等、開催に係る事項を審議した。■委員は本学の専門性を活かしたシニアサマーカレッジが実施できるよう、各学科の教員に講師を依頼した。■庶務課は、シニアサマーカレッジ開催に伴う渉外及び学内連絡調整を遅延なく行った。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■委員会は、シニアサマーカレッジ係る事項を審議し、計画どおりに開催した。■受講生を対象にしたアンケートを実施し、第2回委員会において結果検証を行った。■2024年度の開催に向けて、シニアサマーカレッジの2019・2022・2023年度受講生59名にクリスマス礼拝の案内及びクリスマスカードを郵送した。（リピーターの確保）	結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■引き続き、本学が社会貢献を果たせるよう、シニアサマーカレッジの開催を前提とした委員会の運営に努める。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目［事案］に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	教職課程　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	教務部	課	教務課

委員会設置の根拠（規程等）	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第３９条、教職課程委員会規程				
構　成	委員長	木村　政伸	副委員長	塚本 美紀	阿南 寿美子
	委　員	一期﨑 直美	杉谷 修一	西丸 月美	浜谷 小百合
		太田　かおり(陪席)	隅田 直孝(陪席)		

構成員数：９名

委員会の役割に関する事項（概要）	１．教職課程の編成、講義及び実習に関する事項 ２．その他教職課程に関する事項

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	教職課程FDについて	教職課程FDの実施	決済	
	教職論集について	教職論集Vol2の発刊	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	教員採用試験について	教員採用試験結果の報告	意見	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項

項目[事案]	教職課程FDについて	決裁・意見・委託・上程の別	決済	

P　計　画

当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか

中央教育審議会からの通知や法令の変更、教員不足などの現在の学校現場を取り巻く状況を把握し、より現場に即した学びを実現するため、教職課程FDを実施したい。

↓

D　実　施

計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか

教職課程委員長および担当者にて教職課程FDを企画し、実施した。

過程の評価

■順　調
□遅　延
□未実施

↓

C　評　価

実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か

教職課程委員長により「福岡県を中心とした新しいタイプの学校の設立について―夜間中学・学びの多様化学校を中心に」をテーマにFDを実施した。

結果の評価

■達　成
□前　進
□維　持
□停　滞
□後　退

↓

A　改　善

評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと

2023年度より設置される夜間中学校の話題を中心に、現在の学校現場についての理解を進めることができた。次年度は教職課程申請が行われる予定であり、関連するFDの実施も検討する必要がある。

次年度見通し

次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し

常に変化し続ける学校現場に対応できる教員を養成するため、知識や意識改革を行う必要がある。今後とも教職課程FDを実施していきたい。

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 昨年度より教職課程の情報公開の手段として、教職論集を発刊した。今年度も引き続きVol2を発刊し、教員の研究業績の積み増しや学生の発表の機会を創出したい。			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 編集委員会より教職員を対象に投稿の募集を行った。また、学生に対しても教職課程に関するボランティアや学校体験活動などの体験をまとめて投稿するように呼びかけた。			■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 教員3名より研究論文2本と実践報告が投稿された。学生からも教育実習やボランティア活動、学校体験活動等の報告が提出された。教職課程委員以外からの投稿もあり、研究業績の積み増しの目標も達成できた。			■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 次年度は教職課程申請も行う予定であり、論文投稿が増えることが想定される。よりよい教職論集が発刊できるように考えたい。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 論文数が増えることも想定し、場合によっては年内発行数を増やす等の検討も行いたい。			

	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか	
	↓	↓	過程の評価
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	結果の評価
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か	□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学キャンパス・ハラスメント防止・対策　委員会		
大短委-2023			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）	「大学キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」第５条					

構成						構成員数
	委員長	木村　政伸	副委員長	林　裕二	篠木　賢一	
	委　員	木村　政伸	杉本　有紗	尾上　均	林　裕二	
		篠木　賢一	髙﨑　智子	藤川　信幸		7

委員会の役割に関する事項（概要）	キャンパス・ハラスメントの防止のための研修、調査及び啓発活動に関する事項、キャンパス・ハラスメントに関する相談及び問題解決のための手続きに関する事項、調査結果の報告及び対応策の勧告に関する事項、その他キャンパスハラスメントに関する事項を審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	ハラスメント防止セミナーの実施	教職員対象（講義形式）	決裁	学長
	相談員講習会	解決するための手続き等を説明		
	リーフレットの作成	ハラスメントに対する取組み、解決方法の案		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 本学の構成員が個人として尊重され、快適な学習、教育、研究及び就労環境の確保を図るため、キャンパス・ハラスメントの発生を防止するとともに、キャンパス・ハラスメントに起因する問題が生じた場合、適切な措置を講じる。
	↓	↓
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか キャンパス・ハラスメント防止啓発のためのリーフレットを作成し、相談員一覧をUNIPAに掲出し、相談窓口の周知を図った。また、教職員対象の研修を企画・実施し、キャンパス・ハラスメントに対する理解を深めるように努めた。 過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ①リーフレットを作成し、４月のオリエンテーション時に新入生に配布。②2024年3月14日に教職員対象のハラスメント防止セミナーを実施。講師は九州大学ハラスメント対策推進室　神野文氏。③2024年3月7日にハラスメント相談員とハラスメント委員を対象とした講習会を実施。講師は、福祉学科　木村教授。 結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 次年度も①リーフレットの作成、②ハラスメント防止セミナーの企画・実施、③相談員講習会を継続する。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	国際交流　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	学生部	課	学生課

委員会設置の根拠（規程等）	「国際交流委員会規程」第１条

構　成						構成員数
	委員長	髙﨑　智子	副委員長		東　彩子	8
	委　員	溝部　昌子	梶原　浩介	藤和　太	クリステン・サリバン	
		劉　明	東　彩子	髙﨑　智子	藤川　信幸	

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の海外研修に関する事項、海外の大学等との国際交流協定に関する事項、外国語留学生の受け入れに関する事項、学生の海外留学に関する事項、その他国際交流に関する事項を審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	仁川大学校、培材大学校との協定締結	学術協定（仁川大学校のみ）、交換留学の協定の策定	上程	大学評議会

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	交換留学生の資格外活動の許可	許可を与えるための枠組みの策定	決裁	本委員会

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	韓国２大学との協定締結について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■仁川大学校からの学術及び交換留学に関する協定、培材大学校からは交換留学の協定について申し出があり、協定締結について検討することになった。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■観光文化学科が仁川大学校の視察後、両大学との協定書（案）が国際交流委員会に提出され、委員会で審議。いくつかの確認事項があり、確認後に国際交流委員会で承認、その後大学評議会に提出、本部の諸会議を経て、先方大学と協定書締結にむけてやりとりを実施し、無事、協定の締結を行った。		過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施	
	↓	↓			
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■協定締結のため作業ははじめてのことだったため、戸惑うことばかりであった。先方の大学は国際業務の専門部署であり、かなり出張等があって不在のため、やりとりに時間を必要としたが、１２月末までを目標としていたが、年内に無事に協定の締結ができた。		結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退	
	↓	↓			
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■協定締結のための作業は戸惑うことばかりだったが、今回の経験を次回に活かしたい。ただ、英語のメールでのやりとりの大学が中心となるので、学生課スタッフに英語が堪能な者が必要であると実感した。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■交換留学生については、中国２大学（大連、上海旅游）との協定では、交換留学生は資格外活動（アルバイト）を認めていない。観光文化学科より資格外活動の許可を認めて欲しいとの提案があり、国際交流委員会でその方針を検討した。ほとんどの大学では交換留学生の資格外活動が認められていることから本学でも認める方向を確認し、認めるための枠組み（法律で定められている資格外活動をどのように指導し、把握するか）を作り、国際交流委員会で審議することになった
	↓	↓
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■枠組みとして、資格外活動に関する申請、誓約、時間数等の書類を作成し、学科と学生課で資格外活動を把握するような仕組みとした。協定の変更なしで、実施するため、原則に関する考えを拡大することとし、大連、上海旅游のそれぞれに担当者に連絡し、その旨伝え、了解を取った。国際交流委員会でこれらを報告し、承認を得た。 過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■まだ、交換留学生より資格外活動の申し出がなく、動いていないため、今の考えで把握ができるのか、まだわからない状態です。今後、資格外活動の申し出があって動きだした際、注意して事に当たりたい。修正が必要な場合は、即、対応できるようにしたい。 結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■特になし。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	学生募集　　委員会			
大短委-2023			担当部局等	部局等	入試部	課	入試課
委員会設置の根拠（規程等）	会議規則第３９条、学生募集委員会規程						

構　成					構成員数
委員長	今村浩司	副委員長	角谷尚久	笠修彰	
委　員	鹿毛美香	樋口由貴子	上村眞生	文屋典子	
	舩越淳子	木村宏和	馬本鈴子	塚本美紀	15
	八尋春海	古賀玉緒	山路麻佳	入試課長	

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生募集に関する事項について審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	入学者選抜説明会	高等学校教員対象の大学及び選抜概要説明	決済	
	高校訪問	高校進路指導部訪問による情報提供及び収集	決済	
	オープンキャンパス（ＯＣ）	高校生、保護者向けの大学紹介・授業体験	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	模擬講義への出講	高等学校に出向く形式の大学講義の実施		
	学科ブログの運営	公式ウェブサイトにリンクするブログの更新		
	学生スタッフの推薦	ＯＣで協力してもらう学生スタッフの選出		
	学科独自の募集企画	学科特性を重視した募集活動の実施		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	入学者選抜説明会	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校教員を対象に大学概要と次年度選抜概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心をもっていただくことで志願者増及び入学者確保につなげたい。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■６月下旬にかけ、北九州市（本学）での開催を予定した。 ■本学会場では学内施設見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教員を主な学内施設への案内を準備した。			過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■アンケート結果からも、前進したと思われる。募集要項を配布できなかったことが次年度に向けての課題。			結果の評価 □達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 ■後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■高校生、高校教員が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。 ■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような資料（選抜方法のポイントが明確で理解しやすいもの）を提供する。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■志願者増及び入学者確保を目指すために上記改善案を検討・実施する。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項

項目[事案]	高校訪問	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校進路指導部を訪問し、本学の入学者選抜・学生募集に関する情報を提供するとともに、高校側の情報を収集するなど、本学と高校との関係をより緊密にすることで志願者増及び入学者確保をはかりたい。			
↓	↓			過程の評価
D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■大学は学生募集委員を主とした学科教員が志願者の多い近隣の50校を重点校として、これを中心に訪問を予定した。 ■短期大学部保育科は教員全員で北九州市内を中心に訪問を予定した。 ■大学概要及び選抜概要、当該高校出身者の在学状況・卒業後の進路状況報告を予定した。また進学支援に資する本学の取り組みなどの情報提供を予定した。 ■教職員とは別に、在学生による母校訪問を行い、恩師や後輩に学生生活等の近況報告を行うことを予定した。 ■入試課を中心に事務方で北九州市内の高校に訪問することができたが、回数は1～2回にとどまった。			□順　調 ■遅　延 □未実施
↓	↓			結果の評価
C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■新型コロナウィルス感染症の拡大により予定した訪問を行えず、訪問回数は大幅に減少した昨年からは上回ったもののコロナ禍前には戻らなかった。			□達　成 □前　進 □維　持 ■停　滞 □後　退
↓	↓			
A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■高校進路指導部教員と、より良好な関係を築くために高校訪問担当者を固定する。また、高校の特性によって訪問の時期・回数など検討する。			
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■高校訪問の実施方策を上記改善案に従って行なう。			

項目[事案]	オープンキャンパス	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学での学生生活体験（模擬授業、在学生との交流、施設見学）を通して、学科の教育内容や本学の様子を高校生に理解してもらい、志願者を増やし入学者を確保したい。 ■近年、特に進学意思決定に影響力のある保護者の参加を促し、本学への進学を薦めてもらう。			
↓	↓			過程の評価
D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■７月、８月に全３回、全学的に開催した。 ■無料送迎バスの運行を予定した。（JR８駅：小倉、黒崎、折尾） ■３月には全学的にオープンキャンパスを開催した。（高校新２，３年生対象）			□順　調 □遅　延 ■未実施
↓	↓			結果の評価
C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■7月、8月の計３回行った対面型オープンキャンパスの参加者は昨年度よりは増えたが例年（コロナ禍前）の参加者数には戻らなかった。			□達　成 □前　進 □維　持 ■停　滞 □後　退
↓	↓			
A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■新型コロナウィルスの感染状況によるが開催時間、定員制による参加者数の制限を行わず、例年通りの開催方法に戻していきたい。 ■無料バス送迎（近距離）は次年度も実施する。 ■春のオープンキャンパスは3月末に開催予定。			
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■上記改善案に従いオープンキャンパスを実施する。			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■例年、４月～６月の各月１回、合計３回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討をしているが、各回で提出される議題が多い。 ■議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策を実施したい。 ■年度末（２月～３月）に次年度の計画を[illegible]で事前に協議を重ねる
	↓	↓
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学科での審議時間を確保できるよう、１か月の期間をおいて次回委員会を開催している。 ■合計３回開催した。 ■審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度３月に学科長に事前提示するものもある。 過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■学科で審議・検討された結果は、次回委員会の開催までに入試課で取り纏め、会議資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。 結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■学科で十分に審議・検討が行えるよう、議題の整理や事前提示等について検討したい。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■当該年度の学生募集委員会で検討した方策に従い、学生募集活動を行なう。

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項

項目［事案］	学科独自の募集企画	決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠	学生募集委員会規程第２条			

■大学パンフレットに掲載していない取り組みや、パンフレットだけでは紹介しきれない取り組みがある学科では独自の学科リーフレットを作製し、高校生に配布している。次年度からは学部単位で作成し、高校訪問やダイレクトメールにも対応できるようにしていく。
■学科リーフレットを作製しない学科では、入試部と相談のうえ、作製費用の一部を学科独自の募集企画に充当することができる。
■ゼミ活動を地域活動に連携させている学科もあり、在学生の教育の成果を発表する場として、取り組み状況を公式ウェブサイト等によって学外に紹介している。

項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	教育経費予算配分　委員会		
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	事務部	課　会計課

委員会設置の根拠（規程等）	教育経費予算配分委員会規程				
構　成	委員長	笠　修彰	副委員長	藤和　太	八尋　春海
	委　員	吉原 悦子	文屋　典子	藤和　太	ｱﾝﾃﾞﾘｭｰ･ｼﾞｯﾂﾏﾝ
		八尋　春海	笠　修彰		

構成員数：6

委員会の役割に関する事項（概要）	当年度の確定予算額により、①十分に検討された必要物品及び備品、②実習先への実習謝金、③実習実施に伴う旅費交通費、④専任教員以外の者が行う授業に対する謝金、⑤十分に検討されたその他の経費について審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	当年度の確定予算額	予算の申請、執行について	決済	
	前年度の執行報告	執行額について	決済	
	次年度の暫定予算額	次年度５月1日にて確定までの暫定予算	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	当年度の確定予算額	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、各学部の予算額を下記の通り算定する。 保健福祉学部および短期大学部は、学生一人当たり納付金額×在籍学生数×１/4×12%であり。 人文学部は、学生一人当たりの納付金額×1/4×12%×40%である。			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 会計課より、規程と実施細則を配付し理解を求めた。			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 実習費の値上げや物価の高騰により、規程通りの予算を越える学科があった。			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 前年度までの執行額は予算内に収まっている学科についても規程の予算額を超えて申請しているため、各科での厳密な予算編成が必要であると考える。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 各学科の予算作成方法がバラバラで各自が理解できていない状況であるため、今後は、委員の理解を深める取り組みが必要と考えている。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]	前年度の執行報告	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 各学科の予算を作成するにあたり、前年度の執行額を確認し予算内での予算計画を検討する。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 会計課にて規程および実務細則を配付し理解を求めるとともに、学校会計について説明した。			過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 予算を超えて提出する学科は変わらない。			結果の評価 □達　成 □前　進 □維　持 ■停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 実習費や物品等の値上げにより現在の予算では収まりきれない学科がある。学費の値上げも含め、予算額の算定方法を検討したい。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 経費を削減し、できる限り現在の予算内で執行できるよう各学科に依頼する。今後は学費の値上げも含め、予算額の算定方法も検討していく。			
	項目[事案]	次年度の暫定予算額	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、次のとおり算定する。（当年度５月１日現在の学生数を基に次年度の暫定予算額を算定。）保健福祉学部および短期大学部は、学生一人当たり納付金額×在籍学生数×１/4×12%であり。 人文学部は、学生一人当たりの納付金額×1/4×12%×40%である。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 会計課が規程並びに実務細則に基づき計算した暫定予算額を提示した。			過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 各委員より、暫定予算に基づき予算案を提出してもらったが、予算内に収まり切れない学科があった。			結果の評価 □達　成 □前　進 □維　持 ■停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 規程並びに実務細則に基づき予算計画を立てるよう学校会計の理解を深める取り組みを継続する。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 規程並びに実務細則の改正及び学費の値上げなど、委員会で意見をまとめたい。			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 規程並びに実務細則のとおりの計算で予算計画を立てるよう努める。	
	↓	↓	過程の評価
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 提示した予算金額に収まらない場合は、各学科に相談し理解を求めた。	■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	結果の評価
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 予算計画の変更を含め、できる限り予算金額内で収めるような努力が見られた。	□達　成 ■前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと すべての学科が規程並びに実務細則のとおりの予算額に収まるよう理解を求める。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	倫理審査　委員会		
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	事務部	課　庶務課

委員会設置の根拠（規程等）	研究取扱規則第8条第1項及び倫理審査委員会規程				
構　成	委員長	笹月桃子	副委員長	林裕二	藤田稔子
	委　員	笹月桃子	通山久仁子	髙﨑智子	林裕二
		藤田捻子	植田浩司	菊田彰夫	新谷恭明

構成員数：8

委員会の役割に関する事項（概要）	■倫理審査委員会規程第3条に基づき、① 研究の実施又は継続の適否その他研究に関し必要な事項、② ①に関する問題について学長から諮問があった事項、③ 研究倫理教育に関する事項、④委員会が必要と認めた事項について審議する。■研究の実施又は継続の適否に関しては、生命科学・医学系研究に関する倫理指針及び本学の研究取扱規則に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、当該研究に係る教職員等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、意見を述べる。また、当該研究に関連する学会が定める倫理規程等がある場合、研究がその倫理規程等に適合しているかを検討する。

年度重点項目[事案]に関する事項

項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
研究倫理教育	研究倫理講習会の開催・研究倫理に関するリーフレットの作成		
研究活動に係るガイドライン等の改正	研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドラインの改正 個人情報と研究データの取り扱いの改正		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項

項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
研究の実施計画の適否の審議	人を対象とする研究の適切性の審査	報告	学長

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項

項目[事案]	研究倫理の確立	決裁・意見・委託・上程の別		
P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教職員に対して研究倫理講習会を開催し、研究倫理の理解を深め適切な研究実施を推進する。■2022年度研究倫理講習会アンケート結果を検証し、本学に適した研究倫理講習会を開催する。■学生に対して研究倫理の理解を深める教育を行う。			
↓	↓			
D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2024年2月29日、研究倫理講習会を二部構成（第一部…外部講師による講演、第二部…倫理審査委員長による「倫理審査申請書類の書き方のコツ」）で開催した。■新入生の『初年次教育』において、研究倫理について学ぶ機会を提供した。■研究倫理に関するリーフレット「研究活動をする学生・教職員にみなさまへ」を発行（再版）し、新任の教員及び新入生に配付した。		過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施	
↓	↓			
C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■研究倫理講習会には76名（外部倫理審査委員、事務担当者等を含む）が出席した。欠席者38名については、研究倫理講習会の録画を視聴してもらい、2023年度研究倫理講習会の受講率は100%となった。■「倫理審査申請書類の書き方のコツ」を実施し、2022年度のアンケート結果を踏まえた研究倫理講習会を行うことができた。		結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退	
↓	↓			
A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■引き続き、倫理指針の動向や本学に適した研究倫理講習会を開催し、教職員及び学生の研究倫理の理解を深め、適切な研究の実施を推進する。			
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■研究倫理講習会後に実施したアンケートの結果を検証し、本学に適した研究倫理講習会を開催する。■新入生の「初年次教育」において、リーフレット「研究活動をする学生・教職員のみなさまへ」を配付する。■2025年度に向け、リーフレット「研究活動をする学生・教職員のみなさまへ」の見直しを行う。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]	研究活動に係るガイドライン等の改正	決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学の研究取扱規則・倫理審査委員会規程(2022.4.1施行)に伴い、「研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドライン」・「個人情報と研究データの取り扱い」について見直し行う。併せて、個人情報保護法の改正に伴う倫理指針の一部改正(2022.4.1施行)と齟齬がないか確認する。			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2022年度第9回倫理審査委員会の審議を受け、「研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドライン」・「個人情報と研究データの取扱いについて」の改正に向け、他の研究機関のガイドライン等について情報収集を行った。■第4回倫理審査委員会では、「要配慮個人情報に関する政令の方向性」「個人情報の保護に関する法律」について意見交換を行った。			□順　調 ■遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■情報収集等は行ったが、素案作成に至らなかった。			□達　成 □前　進 □維　持 ■停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■「研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドライン」・「個人情報と研究データの取扱いについて」の素案を作成し、再度、倫理審査員会において審議を行う。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 引き続き、「研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドライン」及び「個人情報と研究データの取り扱いについて」見直しを行っていく。			

	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■研究取扱規則、倫理審査委員会規程及び各種指針等に基づき研究の実施計画の適否を審査する。■委員会は、原則として月1回開催する。■新申請書類等を運用し、申請前の事前相談業務の平準化を進める。■研究に関する審査の結果を「審査結果報告書」により学長へ報告する。
	↓	↓
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■委員会を11回、迅速審査の委員会を7回開催した。■13件の研究について審議し、通常審査（7件）・迅速審査（6件）に分別した。■審査については申請者と面接し、質疑及び助言を行った。■事前相談業務は、学部学科の括りに関係なく輪番であたった。■庶務課は、委員会に関する事務等を遅延なく行った。 過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■通常審査・迅速審査において、新規申請11件、変更申請2件を承認した。また、「審査結果報告書」により学長への報告を速やかに行った。■委員は、事前相談業務を行い、申請→審査→研究開始が円滑に進むように役割をはたした。■事前相談業務は、輪番制としたため、委員の業務にバランスがとれた。 結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■研究取扱規則、倫理審査委員会規程及び各種指針等に基づく審査を行うとともに、研究者のニーズにあった支援をしていきたい。■迅速審査において、1回の審査で承認が得られないケースが2件あった。倫理審査委員会において、通常審査か迅速審査に分別する際は注意をしたい。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■委員会は原則月1回開催することとし、申請を定期的に審査できる環境は整っている。委員会が円滑に運営できるよう、委員会開催日程や申請手順等を周知する方法を引き続き工夫する（学内情報ポータルサイト「倫理審査委員会」コンテンツ内の充実）。■引き続き、申請書類の書き方講座等を行い、倫理審査申請者及び委員の負担軽減につなげたい。

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］	情報公開	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠	倫理審査委員会規程			
	■本学公式ウェブサイト及び研究倫理審査委員会報告システム（厚生労働省運営）に「規則」「規程」「申請手順」「委員名簿」「議事録」等を公開し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	動物実験　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課

委員会設置の根拠（規程等）	動物実験規程第６条第２項、動物実験委員会規程

構　成						構成員数
	委員長	伊藤直子	副委員長	岡部明仁		
	委　員	伊藤直子	岡部明仁	尾上　均	目野郁子	
		天本理恵				5

委員会の役割に関する事項（概要）	■動物実験計画に関する事項、 動物実験計画の実施状況及び結果に関する事項、動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況に関する事項、その他動物実験の適正な実施に関する事項について審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	適正な動物実験の実施	適正な動物実験と実験動物の飼養保管	意見	学長

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	動物実験施設等の視察	委員会による動物実験施設等の視察	意見	学長
	動物実験実施者に対する教育訓練	基本指針・飼養保管基準に基づく教育訓練	意見	学長

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	適正な動物実験の実施	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学内規程等により、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告を適正に実施する。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■基本指針に適合した動物実験が実施された。 ■動物実験に関する管理運営体制は整っており、安全管理に注意を要する動物実験は行わない旨の学長決定をしている。		過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施	
	↓	↓			
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■各種マニュアルは整備されており、適正な動物実験を実施できる管理運営体制に問題は見当たらない。		結果の評価 □達　成 □前　進 ■維　持 □停　滞 □後　退	
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■マニュアルの確実な運用を図り、適切な動物実験を行う。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■動物実験責任者が申請した動物実験計画が動物実験等に関する法令及び機関内規程に適合しているかどうかの審査を実施し、その結果を学長に報告する。また、動物実験計画の実施の結果について、必要に応じ助言を行う。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■動物実験計画の審査（変更申請の審査も含む）を1件行い、動物実験のガイドラインに適合した実験計画であると判断し、承認した。	過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■承認した動物実験計画については、計画どおり実施された。	結果の評価 □達　成 □前　進 ■維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■審査の体制は整っており、今後も動物実験の適正な管理に努める。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。	

委員会が取り扱った項目［事案］のうち特に状況等の記載を要する事項	項目［事案］	動物実験施設等の視察	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目［事案］に係る規程上の根拠	動物実験委員会規程第２条			
	■動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況について、委員会による視察・点検を行った結果、問題は見当たらなかった。				
	項目［事案］	動物実験実施者に対する教育訓練	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目［事案］に係る規程上の根拠	動物実験規程第15条			
	■動物実験に関する外部検証の研修会（オンライン）には、庶務課長・庶務課員の2人が参加した。 ■動物実験委員への教育訓練は、動物実験に関する教育動画（北海道大学制作）の視聴により行った。法令や基本指針の改正にあわせて、今後も定期的に実施する。				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				
	項目［事案］		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目［事案］に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	学生個人情報保護　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	学生部	課	学生課

委員会設置の根拠（規程等）	「学生個人情報保護規則」第14条

構成						構成員数
	委員長	尾上　均	副委員長	髙橋　幸夫	谷崎　太	9
	委員	長崎　恵美子	増本　由紀子	尾上　均	マルコム・ロス・スワンソン	
		高橋　幸夫	谷崎　太	髙崎　智子	小川　尚	
		藤川　信幸				

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の個人情報保護の基本的施策に関する事項、学生の個人情報の適正管理に関する事項、学生の個人情報の開示、訂正および削除に関する事項、学生の個人情報にかかわる不服申立てに関する事項、その他学生の個人情報に関する事項を審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	個人情報の利用目的等の通知	入学予定者に文書を送付、同意書の受領		
	個人情報の取扱い周知	非常勤講師に文書送付（新規委嘱のみ）		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 「学生個人情報保護規則」などの学内規則の定めによる適正な取扱いについて周知を図るとともに、審議が必要な事案が生じた場合は、国の定める法律やガイドラインに関する正しい理解のもと、実のある審議ができるようにしたい。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 審議案件はなかった。	過程の評価 □順　調 □遅　延 ■未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か 該当なし	結果の評価 □達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと 該当なし	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし	

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	情報システム管理運用　委員会			
大短委-2023	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	事務部	課	情報システム管理課

委員会設置の根拠（規程等）	情報システム管理運用委員会規程

構　成						構成員数
	委員長	小川尚	副委員長	ﾏﾙｺﾑ・ﾛｽ・ｽﾜﾝｿﾝ		
	委　員	中原智美	上村眞生	若菜啓孝	高橋幸夫	
		谷崎太	今村浩司	隅田直孝		9

委員会の役割に関する事項（概要）	
	■ ネットワークを含む情報システムの管理運用に関する事項 ■ 情報セキュリティに関する事項 ■ 情報システム利用者の支援及び違反行為に関する事項 ■ 情報処理に係る研修に関する事項 ■ ホームページに関する事項 ■ その他情報システムに関する事項

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	■ 公式ウェブサイトリプレース	公式ウェブサイトのリプレース	決裁	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	■ 情報処理研修	新任教職員及び新入生に対する情報処理研修	決裁	
	■ 情報セキュリティ講座	新任教職員受講必須の情報セキュリティ講座	決裁	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	公式ウェブサイトリプレース	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■公式ウェブサイトを学生募集に繋がるようリプレースを行いたい。			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昨年度にコンペを実施し、選定された業者と連携し、コンテンツやデザインの決定を行った。			■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■全体のウェブサイトが完成し、4月に公開された。			■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■公式ウェブサイトが刷新され、より魅力的な情報を発信することができるようになった。今後も既存コンテンツの更新や本学の魅力を発信し続ける体制を構築する。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の評価
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			結果の評価
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か			□達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学内の情報サービスを断続することなく提供したい。 ■学生、教職員がよりよく情報サービスを利用できるよう情報システムの充実を図りたい。
	↓	↓
	D　実　施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■情報システムの保守、障害について、情報システム管理課が対応する。 ■学生が情報サービスをよりよく利用できるよう、遠隔授業システムの運用、ヘルプデスクの設置、情報処理演習室のメンテナンスを行った。 過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓
	C　評　価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■発生した障害について、臨時電源での復旧等、サービスの停止時間を極力短くするよう情報システム管理課によって適切な対応が行われた。 ■情報処理演習室、学生用無線LAN、SWITCH Café、ﾌﾘｰPCｽﾍﾟｰｽは高い稼働率であり、学生サービスの充実の一環として機能した。 結果の評価 □達　成 □前　進 ■維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓
	A　改　善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■ネットワークの中枢である7号館の停電を受け、復旧手順のチェックを行いたい。 ■無線ネットワーク等、学内ネットワークの負荷を定期的に確認したい。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	情報処理研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第２条			
	■新任教職員及び新入生に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。				
	項目[事案]	情報セキュリティ講座	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第２条			
	■情報セキュリティ講座について、Google Meetを利用し、オンライン型の講座を実施した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書　委員会　委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	図書　委員会			
大短委-2023-*-*	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	図書	課	

委員会設置の根拠（規程等）	図書委員会規程

構成						構成員数
	委員長	岡田和敏	副委員長	角谷尚久	山路麻佳	7
	委員	溝部昌子	木村茂喜	渡邊和美	角谷尚久	
		山路麻佳	岡田和敏	垂水典子		

委員会の役割に関する事項（概要）	■図書、研究情報及び資料等に伴う予算配分に関する事項を審議する。 ■図書、研究情報及び資料等に関する事項を審議する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	図書館資料費予算配分	図書館資料費予算配分の決定	決済	
	購読雑誌見直し	2024年度以降の購読雑誌の選定	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	図書館資料費予算配分	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P　計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2023年度図書館資料費予算総額を、図書費・新聞雑誌費・データベース利用料に配分する。図書費の学科別配分は、学科の特性を考慮し、公平に行う。			
	↓	↓			
	D　実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■大幅な外国雑誌の値上がりのため、補正予算で図書費が減額となった。■学科別図書費は、各学科の学生数、学納金額、図書貸出冊数の比率を算出して配分する。■「2023年度大学図書館資料費配分案」、「2023年度短大部図書館資料費配分案」を第1回図書委員会において審議し、承認した。			過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施
	↓	↓			
	C　評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■2023年度図書館資料費予算配分は適正に行われた。■円安により外国雑誌の金額が高騰しているため、雑誌やデータベースの見直しが必要となっている。			結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓			
	A　改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■外国雑誌は年々値上がりする上に、円安でさらに高騰している。データベースも見直しを行い、必要な資料が購入できるようバランスを考えていく必要がある。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■雑誌とデータベースの見直しを行う。■電子ジャーナル、データベースの利用状況の調査を行い、利用されていないものについては、契約を終了する。			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項					
	項目[事案]	購読雑誌見直し	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■購読雑誌見直しは隔年で実施しており、2022年度は、2023年度以降の購読雑誌の見直しを行った。円安により外国雑誌の高騰が進んでいるため、各学科で本当に必要な外国雑誌を洗い出す。			
	↓	↓			
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■各学科で学科選定の継続中の購読外国雑誌（電子ジャーナル含む）について、まず絶対に必要な雑誌、購読を継続しなくてもいいと思われる雑誌を挙げて、その後保留していた雑誌について再度検討をしてもらった。		過程の評価 ■順　調 □遅　延 □未実施	
	↓	↓			
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■23誌の外国購読を中止し、前年度より約435万円の減額となった。		結果の評価 ■達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退	
	↓	↓			
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■円安の影響で、外国雑誌の価格の高騰の先が見えないため、利用状況等を調査し、さらに中止する雑誌について検討する。次年度は、和雑誌も合わせて見直しを行う。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P　計　画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		過程の評価 □順　調 □遅　延 □未実施	
	↓	↓			
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か		結果の評価 □達　成 □前　進 □維　持 □停　滞 □後　退	
	↓	↓			
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P　計　画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■図書館利用促進のために、委員へは図書館ガイダンスや貸出冊数などの利用状況を報告し、周知を図る。■蔵書の充実・適正化を図り、学生・職員の利用を促進する。■学生の返却遅れについて、教員に理解と協力を求める。	
	↓	↓	
	D　実　施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2019年度までガイダンスの告知及び受講状況や学科別の貸出数などの学生の利用実績を委員会で示し、教員への周知を図ってきたが、利用実績の資料を作成することができなかった。ガイダンスについては、初年次セミナー等の授業以外では、2つのゼミからの依頼があり、文献検索ガイダンスを行った。■返却図書の督促については、アドバイザーの先生方に学生への連絡にご協力いただいた。	過程の評価 □順　調 ■遅　延 □未実施
	↓	↓	
	C　評　価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか ／ 達成・前進していない理由は何か ■図書の選定については、全教員の62%が指定図書を選定して学生の利用促進に貢献した。■図書委員会を開催する回数が少なかったため、図書館の現状についての情報を提供することができなかった。	結果の評価 □達　成 □前　進 ■維　持 □停　滞 □後　退
	↓	↓	
	A　改　善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと ／ 行うべきではないこと ■図書館利用促進のために、教員を通して図書館ガイダンスの受講を推進する。 ■蔵書を充実させ、図書資料の利用促進を図るため、教員の選書を推進する。 ■返却遅れの学生に対しては、今後も委員を通して協力をお願いしていく。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				